LIGHT HOUSE
ライトハウス
〒152-0035 東京都目黒区自由が丘 1-16-13
TEL 03-3717-2711　FAX 03-3717-2721
http://www.lighthouse-jiyugaoka.jp　e-mail gospel@lighthouse-jiyugaoka.jp
郵便振替口座　00120-6-170857　みずほ銀行 渋谷支店 普通 2382850（ライトハウス）

C2021-03 ヒソプをもって

[今月の聖書]

詩篇　51 篇 1.7.8.10.16.17

51:1 神よ、あなたのいつくしみによって、わたしをあわれみ、あなたの豊かなあわれみによって、わたしのもろもろのとがをぬぐい去ってください。51:7 ヒソプをもって、わたしを清めてください、わたしは清くなるでしょう。わたしを洗ってください、わたしは雪よりも白くなるでしょう。51:8 わたしに喜びと楽しみとを満たし、あなたが砕いた骨を喜ばせてください。51:10 神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。51:16 あなたはいけにえを好まれません。たといわたしが燔祭をささげても／あなたは喜ばれないでしょう。51:17 神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心を／かろしめられません。

ヨハネ　19:28-30

19:28 そののち、イエスは今や万事が終ったことを知って、「わたしは、かわく」と言われた。それは、聖書が全うされるためであった。 19:29 そこに、酢いぶどう酒がいっぱい入れてある器がおいてあったので、人々は、このぶどう酒を含ませた海綿をヒソプの茎に結びつけて、イエスの口もとにさし出した。 19:30 すると、イエスはそのぶどう酒を受けて、「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。

出エジプト　12:22.23

12:22 また一束のヒソプを取って鉢の血に浸し、鉢の血を、かもいと入口の二つの柱につけなければならない。朝まであなたがたは、ひとりも家の戸の外に出てはならない。12:23 主が行き巡ってエジプトびとを撃たれるとき、かもいと入口の二つの柱にある血を見て、主はその入口を過ぎ越し、滅ぼす者が、あなたがたの家にはいって、撃つのを許されないであろう。

ヒソプ

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「ヒソプをもって」という題で、聖書的悔い改めの本質についてお話ししたいと思います。それによって人生が全く解放され、新しい命に生きることができるのです。

悔い改めとは「罪のこの世に向かっている心を、神の恩恵の世界に向きかえる回心という意味です」。隠していた罪を告白すれば心が楽になるという考えは、いわゆるカタルシスと言われています。その際自分のことだけを見ていて、実は神の愛と恩寵を見ていないのです。悔い改めは必死で歯を食いしばってやることではなく、神の愛とキリストの十字架の恵みに感動して、口からほとばしり出る感謝と賛美の言葉なのです。

ダビデは優れた信仰者であり、また優れた王でありましたが、初めて徹底的に自分の罪を知りました。そして神はどんな盛大な捧げ物よりも悔い改めた心を求められることに気づきました。彼は「ヒソプをもって、私を清めてください」(詩篇 51: 7)と言いました。ヒソプはイスラエルの道端に生えている草です。小さな花が咲く時香りはありませんが、その花を千切ろうとすると優しい芳香を放ちます。「傷つけられると香る草」ですね。

それはイエス・キリストの十字架にも例えられます。彼は十字架で裂かれ、血潮を流した時、人類の救いの香りとなられました。4 月 3 日までレント(受難節)と言われますが、この香りを味わう時となれば幸いです。

小田 彰

(お知らせ)

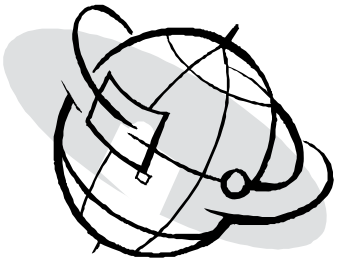
緊急事態宣言が解除されましてもまだ感染予防に充分配慮しなければなりません。その意味で 3 月中の地区集会も休会といたします。4 月から集会を再開できるように祈っています。また皆様もお祈りください。

ホームページ https://www.lighthouse-jiyugaoka.jp
代表メール　gospel@lighthouse-jiyugaoka.jp

◇◆◇ ＣＦＩ会員投稿原稿　第 75 回 ◇◆◇

「CFI テープに支えられて」

三井八重子(神奈川県)



昨年暮れに長年聴いていたカセットテープがなくなることを知りました。しかし実際 1 月号が来てみると薄い CD で私は聞くことができません。思い切ってライトハウスに電話をしてみました。すると小田先生が電話に出られたのです。直接お声を聞くことができたのですが、29 年間カセットテープで聴いていたお声に似てはいますが少し歳をとったように感じました。それは私のテープが何度も聞いているために伸びきってしまい声が変わってしまっていたからかもしれません。なんと 1 月末に私のアパートまで訪ねてくださり CD プレイヤーを届けてくださいました。

私は 1926 年(大正 15 年) 4 月に山梨県甲府市で生まれました。1945 年(昭和 20 年)、敗戦と同時に日本はマッカーサーの支配下に置かれました。頼まれて米軍キャンプの仕事をしていましたが、父の勧めである方と結婚しました。しかしご縁がなかったのでしょうか、離婚しました。その後朝鮮戦争から帰ってきた若い軍医であるアメリカ人医師にみそめられ結婚することになりました。まもなく日本にあるアメリカ軍司令部や、多くの軍人たちが本国へ引き揚げることとなり、私たちもアメリカへ行くことになりました。

敵国に行けば戦争花嫁としていじめられるだろうと父や親戚は大反対でした。その時母だけが「どこにいても太陽は東から出て西に沈むのだから、どんなに馬鹿にされても、ありがとうと言っていなさい」と、背中を押してくれました。そしてアメリカに渡ったのです。それからの生活は楽なものではありませんでしたが、私は大和撫子として、茶道、花道、日本舞踊などをこなし、日本女性の優しさと美しさを精一杯披露しました。毎週日曜日には、アメリカ人の友人に誘われ、教会に出席し形式だけの礼拝を守っていました。辛い苦しい 40 年間でした。

しかし主人の生活も次第に変わり、私も母に会いたい、日本に帰りたい一心で帰国を決意しました。弁護士さんの力も借りて、ついに 60 歳の春帰国しました。その後導かれて相模大野バプテスト教会で受洗しました。ある日、牧師のお母様に誘われて箱根のケズィックコンベンションに出席しました。

そこで初めて小田先生の賛美とお話を聞き感動しました。教会の友人達と祈りの会の中で、小田先生がテープメッセージを配信されていることを聞きました。あれから 29 年、先生の声を朝に夕に聞かない日はありません。

かつて先生のメッセージの中で「信仰の強いものとなりなさい」、「信じなければならない」とのお言葉は私の体に深く刻まれています。毎朝 4 時からテープを聞いて祈り、7 時から朝食をして、またテープを聴くことが日課となっています。ヘルパーさんの手を借りなければ生活できない私が、今生かされているのは小田先生のテープを聴きながら、祈りの中にいるからだと思います。そして神様の愛に守られているからこそだと確信しています。

大好きなみことば

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって、神があなた方に求めておられることである。」　(テサロニケ第一の手紙 5: 16-18)

「あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。またあなたはこれをあなたの手につけてしるしとし、あなたの目の間に置いて覚えとし、またあなたの家の入口の柱と、あなたの門とに書きしるさなければならない。」

(申命記 6:5-9)